

カメルーン事務所から ひとこと

カメルーン保健省は母親・新生児・小児の健康維持を優先課題とし、家族の健康増進と疾病予防の啓発などを行っています。この国では妊娠・出産での妊産婦死亡率が高く、母子の健康を守るために役立つ母子手帳の普及が急務とされています。自分の使命を感じながら野地さんは母子手帳の定着を目指して活動に尽力していました。



企画調査員(ボランティア事業)*
狩野貴子(かの・たかこ)

*隊員の活動全般を支援する「ボランティア事業支援のプロ」。また相手国の要望を調査して要請開拓を行うなど、隊員活動全体の運営を担う。

+one information

暮らしを彩るパーニュ

カメルーンの人びとはおしゃれが大好き。老若男女が着ている色とりどりの衣服について目を奪われてしまいます。彼らがまとう明るく派手な模様がプリントされた布は「パーニュ」と呼ばれ、この国の人びとの生活と密接に結びついています。

現地の人はパーニュを使った服を新調するとき、まず生地屋に向かいます。大きな町には生地屋街があり、カラフルな布を大量に並べた店が軒を連ねています。どの布も素敵で目移りしてしまいそうです。その中からお気に入りのものを選んで購入したら、布を持って仕立て屋に向かいます。サイズを計測してもらい、必要であれば装飾や特別なデザインもお願いして自分にぴったりの一着を作ってもらいます。こうして仕上がった衣服は、普段着や仕事着として人びとの暮らしを彩ります。

パーニュは日常以外にも着ることがあります。たとえば結婚式やお葬式などの大きな行事の際、参加者たちは同じ布を使った衣装でそろえます。うれしいことや悲しいことを同じ衣装を着て体験することで、「みんなで体験を共有した」という思いを深めているのかもしれない。着るたびにそのときの体験がよみがえる特別な衣装には、思い出をいつまでも心にとどめておきたいという願いも込められているように感じます。

カメルーンに行く機会があれば、生地屋でお気に入りの布探しをしてみたいはいかがでしょうか。そして仕立て屋で好きなデザインの衣服を作り、カメルーン流のおしゃれをぜひ楽しんでください! (野地祐輔)



イラスト ● さかがわ成美

母子手帳の普及状況は
どうですか?



病院の医師から母子手帳の普及状況をヒアリングする野地さん(左)。

地域の人たちと
一緒に描きました!



診療所の建物に壁画を制作。住民に親しみや安心感をもってもらうことができた。

人以上増えるといううれしい変化がありました。こうした活動を続けた結果、母子手帳においては約2700部を地域の母親に配付することができました。母子手帳を手にしたお母さんを病院で見ると、協力隊としてカメルーンに来た意義を実感。コロナ禍下で予定よりも帰国が早まりましたが、いままも現地の人たちの力だけで母子手帳の普及活動が継続されています。地域の人たちのために一生懸命取り組んできたことが、彼らの心に伝わったのだと感じています。



JICA海外協力隊 がゆく Vol. 24

妊産婦や5歳未満児の死亡率が高いカメルーンで、母子手帳の普及に関する活動に従事した隊員を紹介します。

構成 ● 坪根育美

in カメルーン 野地祐輔

のち・ゆうすけ
出身地:千葉県 職種:コミュニティ開発
任期:2018年6月~2020年6月



母子手帳の普及は
地域全体の健康増進に
つながります



日本から遠く離れたアフリカの姿を自分の目で確かめたいと思、協力隊に応募しました。赴任先であるカメルーンのエデア市では母子手帳の普及を目指し、母子の病気の予防や健康増進に関する活動を行いました。現地ではマラリアなどの感染症や不衛生な環境下での下痢をはじめ、子どもの死因とな



病院に来たお母さんを対象に、母子手帳を活用した健康に関する啓発を行った。

る病気が蔓延しています。私はまず地域の病院・診療所と家庭を定期的に訪問して医療環境や生活環境を調査し、人々の健康のためにどんな活動ができるかを考えました。そして母子手帳の普及のために母子手帳を活用した母親向けの健康に関するセミナーを開いたり、乳幼児の予防接種を呼びかけたりする啓発活動を始めました。母子手帳は日本発祥のものですが、妊娠時から母親と子どもの健康を維持・管理できると現地の医療従事者たちからも高く評価されていました。ほかにも「世界手洗いの日」(10月15日)と「世界エイズデー」(12月1日)に合わせて小学校では手洗い方法の指導を、中学・高校ではエイズ予防の啓発キャンペーンを実施しました。また地域の医療サービス改善にも取り組み、地域の診療所の認知度向上を目的とした壁画制作を行いました。話を聞いた約70世帯のうち多くの住民が地域の診療所の存在を知らず、都市部の大病院を利用していることがわかったからです。基本的な医療サービスに大差がないにもかかわらず一部の病院に人が集中すると、病院と患者に負担がかかり十分な医療サービスを提供できなくなります。この壁画によって、これまで月に20人程度だった診療所の受診者が10